

令和5年度（2023年度）第1回函館市デジタル化推進協議会

会議録

- 開催日時：令和5年（2023年）6月26日（月） 18:30～20:00
- 開催場所：函館市本庁舎8階第1会議室
- 出席者
委員：奥野委員，三上委員，倉山委員，永澤委員，佐藤委員，堀田委員
（委員名簿順 [6名]）
市側：[企画部] 阿部部長，山口次長，上野課長，上戸主査，松林主事

.....

次 第

- 1 開 会
- 2 委員および事務局紹介
- 3 議事・説明
 - (1) 委員長および副委員長の選任について
 - (2) 函館市デジタル化推進ビジョンの策定について
 - (3) 函館市デジタル化推進ビジョンアウトラインについて
 - (4) 函館市デジタル化推進協議会スケジュールについて
- 4 その他
- 5 閉 会

..... 1 開 会

(事務局 上野課長)

ただ今から、令和5年度第1回函館市デジタル化推進協議会を開催する。

私は、事務局の企画部地域デジタル課長の上野である。

本協議会については原則公開で行い、会議内容については、開催後に本市のホームページで公開する。

本日は都合により2名の委員が欠席となっており、6名での開催となる。なお、1名の委員が少し遅れるということで連絡を受けている。

..... 2 委員および事務局紹介

(事務局 上野課長)

今回は、初めての協議会であるため、選任された委員を紹介する。委員からは自己紹介を兼ねて一言ずついただきたい。

公立はこだて未来大学の奥野委員である。

(奥野委員)

公立はこだて未来大学の奥野である。この協議会は生活産業全てに関わるデジタル化推進ということで非常に身の引き締まる思いである。よろしくお願ひしたい。

(事務局 上野課長)

同じく、公立はこだて未来大学の三上委員である。

(三上委員)

公立はこだて未来大学の三上である。私はロボット工学が専門だが、水産物のトレーサビリティや、看護リハビリ関係では、ロボット・介護システムや治療システムを手がけ、最近では、視覚障害や聴覚障害の方々へ向けてのサービスに関係した取組を行っている。よろしくお願ひしたい。

(事務局 上野課長)

函館商工会議所の永澤委員である。

(永澤委員)

函館商工会議所の永澤である。中小企業の経営支援また地域振興に関連する業務を所管している。入所以来、小規模事業者の情報化支援、ICTの推進、函館商工会議所内の業務システム管理責任者を担当しており、情報技術と関連のある分野の仕事をさせていただいている。よろしくお願ひしたい。

(事務局 上野課長)

函館市身体障害者福祉団体連合会の佐藤委員である。

(佐藤委員)

函館市身体障害者福祉団体連合会の佐藤である。市内のあらゆる身体障害に関わる人たちの連合会の会長をしている。デジタル化については、視覚障害者や聴覚障害者の方々の特化したものがいくつかできてきているが、ある意味命に関わる緊急性のある問題ということもあり、多くの人たちから要望が出ていた。改めて障害を持つての方々の意見を聞き入れながら、協議会に参加したいという思いがある。よろしくお願ひしたい。

(事務局 上野課長)

凸版印刷株式会社の堀田委員である。

(堀田委員)

凸版印刷株式会社の堀田である。凸版印刷株式会社の DX を推進する拠点である「ICT KOBO HAKODATE」が 5 月 8 日に開所し、そこで勤務している。私は生まれが函館市で、未来大学を卒業しており、函館はすごくゆかりのある土地である。若い人が希望を持って、住んだり働いたりできる場所にできるよう、意見を出していきたい。よろしくお願ひしたい。

(事務局 上野課長)

函館工業高等専門学校の倉山委員は、少し遅れると連絡をいただいている。なお、日本政策金融公庫函館支店の堀井委員、北海道 IT コーディネータ協議会の市村委員については、都合により欠席をしている。

次に、事務局職員を紹介する。

企画部長の阿部である。

(事務局 阿部部長)

企画部長の阿部である。

本日は、初めての協議会である。

まずは、委員に就任していただき、また忙しいところ参集していただき感謝している。

本市は人口減少、少子高齢化、東京への一極集中、地域産業の空洞化などの課題に直面しており、今後、様々な分野においてデジタル技術を活用し、地域社会の課題の解決や、地域の魅力向上、さらには地域の活性化を図っていくことが必要だと認識している。

本会議における議論を踏まえ、デジタル化推進ビジョン策定や地域のデジタル化に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えている。

本日は、よろしくお願ひしたい。

(事務局 上野課長)

次に、企画部次長の山口である。

地域デジタル課主査の上戸である。

地域デジタル課の松林である。

※倉山委員到着

(事務局 上野課長)

函館工業高等専門学校の倉山委員である。

(倉山委員)

函館工業専門学校生産システム工学科の倉山である。よろしくお願ひしたい。

..... 3 議 事

(1) 委員長および副委員長の選任について

(事務局 上野課長)

設置要綱第 6 条第 3 項に基づき、本来は委員長が協議会の進行を務めるが、委員長が決定するまでの間、私が議事進行を務める。

それでは設置要綱第 5 条第 2 項に基づく委員長の互選について、事務局から提案したいが、よ

ろしいか。

(異議なし)

委員長は、奥野委員にお願いしたい。よろしいか。

(異議なし)

奥野委員に委員長をお願いする。以降の進行は、奥野委員長をお願いする。

(奥野委員長)

元々ソフトウェア開発の仕事をしていた。その後、未来大で情報システム関連や観光、デジタルアーカイブやオープンデータなど、割とユーザーに関わる部分を研究している。そういった知見を活かせたらと思うので、ご協力をお願いする。

次に、副委員長の選任だが、私から推薦したいが、よろしいか。

(異議なし)

副委員長には、倉山委員を推薦したいが、よろしいか。

(異議なし)

副委員長は、倉山委員に決定する。

(倉山副委員長)

教育工学、学習工学を専門としており、教育に ICT を組み込む研究を約 20 年している。少しでも貢献できればと思うので、よろしくお願いしたい。

(2) 函館市デジタル化推進ビジョンの策定について

(奥野委員長)

本日は、3 件の議題があり、1 つ目は函館市デジタル化推進ビジョンの策定について、2 つ目は函館市デジタル化推進ビジョンアウトラインについて、3 つ目は函館市デジタル化推進協議会スケジュールについてである。

それでは、早速、議事(2)「函館市デジタル化推進ビジョンの策定について」に入る。

事務局から説明をお願いしたい。

(事務局 上戸主査)

【資料1】に基づき説明

(奥野委員長)

デジタル化推進ビジョン策定の前提となるこれまでの取り組みということになると思うが何かあるか。

(委員から特に質問、意見等なし)

それでは、これをもって、「函館市デジタル化推進ビジョンの策定について」は終了する。

(3) 函館市デジタル化推進ビジョンアウトラインについて

(奥野委員長)

それでは、議事の(3)「函館市デジタル化推進ビジョンアウトラインについて」に入る。

事務局から説明をお願いしたい。

(事務局 上野課長)

【 資料 2-1, 2-2 】に基づき説明

(奥野委員長)

それでは、めざす姿、推進を支える取組、推進体制の 3 点について順番に議論していきたい。
まずは、めざす姿について、何か質問や意見はあるか。

(堀田委員)

GIGA スクール構想に基づき、一人一台のタブレット端末がすでに配備されているが、その活用方法が課題となっている。特に、小中学校や高校でのデジタル技術活用がデジタル人材強化に繋がるため、それを念頭においた授業進行が必要である。

また、教員の負担がデジタル化の進行において懸念される点である。新しい技術の導入は教員にとって負担であるため、教員へのデジタル技術の支援や、授業のカリキュラム考案など、教育現場と一緒にデジタル化を進める体制が必要である。

(奥野委員長)

(資料 2-1 下段の) 推進を支える取組の中で、デジタル推進人材の育成とあり、市職員の研修や市内中小企業への支援とあるが、教員に対しても支援が必要ということである。関連して教育工学的な立場から、倉山委員に補足をお願いしたい。

(倉山副委員長)

学校ではデジタル教材を用いる際、それに適した授業計画が必要となり、これが教員にとって大変な課題となっている。そのため、教員を教育するだけでなく、授業計画の立案等にも寄り添える中間的な人材が必要である。

また、学校のデジタル化推進の一方で、印刷物の問題や、保護者とのコミュニケーション手段のデジタル化が課題とされている。これらの問題解決に向けて何らかの取組が必要である。

(奥野委員長)

その他、意見はないか。

(三上委員)

本資料については、きれいにまとまっているが、他都市にも当てはまる一般的な事例が挙げられていると感じる。

函館市の特徴として、フラットな地形と高齢者の多さが挙げられる。これらの特徴を考慮した上で、ビジョンの作成が必要であると考えます。

オンデマンド交通やバイクシェアのような海外の事例にあるように、日本の交通機関の問題解決のためには、行政の積極的な関与が求められ、それによって交通機関の利便性が向上するのではないかと考える。

(奥野委員長)

佐藤委員から福祉関係のお話をいただきたいがどうか。

(佐藤委員)

市民団体の活動がコロナの影響でオンライン化した一方で、全員がオンラインで参加できる環境は整っておらず、デジタル化の促進とそれに伴うサポート体制の強化が必要である。

特に、デジタル化と福祉の関連性について、高齢者などのデジタルデバイスの使いこなしに課題があり、解決策として、地域でのスマートフォン教室開催や、各機能の適切な使用方法の教育が必要であると思われる。

また、デジタル化と防災について、防災対策においてもデジタル化が進むと、災害のピンポイ

ントな情報が提供されると期待している。しかし、現状では、特に高齢者にはそのような情報が届いていない。その解決策として、デジタルデバイスの普及と情報利用のサポートが必要であると考え。

(奥野委員長)

デジタルデバイスについて、個人だけでなく団体にも支援が必要ということと、防災に関して気象アプリなど便利なものはあるが、情報を本当に必要とするものには届いていない恐れがあるということである。

永澤委員から産業面のお話をいただきたいがどうか。

(永澤委員)

中小企業における ICT 活用の推進が求められているが、ツール利用のノウハウ不足や学習意欲の低下から、業務プロセスの改善が進んでいない。企業の底上げを行う方策として、明確なビジョンとなってほしい。

また、ICT の進展は、システム利用料や手数料の発生など、新たな経費が生じて地域産業の利益を減らす側面があり、一方で、新たな付加価値を生むスモールビジネスのチャンスでもある。ICT を上手く活用し、域内経済循環を高める方針が重要である。

組織によっては、セキュリティ上の理由で新しいツールの使用を避ける傾向があり、業務プロセスの改善が進まない。業務効率を上げるためには、新しいツールの利活用ノウハウの習得が必要である。

このように、中小企業でもデジタル化を進め、生産性向上と業務負荷軽減を図る必要があり、ICT 活用のための研修や人材育成を通じて底上げを図っていくことについては、今回のビジョンの中で謳っていただきたいと考える。

(奥野委員長)

その他、堀田委員から他地域の事例についてお話をいただきたいがどうか。

(堀田委員)

凸版印刷は、もともと印刷会社なので、デジタル化が大きな課題となっている。顧客との対話を通じて、一歩ずつデジタルへの移行を進めており、全国にサテライトオフィスを設け、地方のデジタル化のニーズを理解し、産学官連携を通じてデジタル化を推進することを方針としている。

教育や防災などの分野で地方の企業や自治体と連携し、デジタル化を推進しており、地域に展開できるモデルケースを作ることができれば、それが他の地域にも広がることを期待している。

(奥野委員長)

本日欠席している市村委員から意見をいただいているので紹介する。

※市村委員からの意見

分野について、介護福祉を加えた方がいいのではないか。また、データ活用については、分析・シミュレーションしてフィードバックする仕組みが重要であると考え。

(奥野委員長)

その他、意見はないか。

(三上委員)

資料にはスマート農業のみが記載されているが、水産業と林業の視点も加えた方がいいのではないか。

(奥野委員長)

確かに市内でもこれから取り組もうとしている所もある。そちらを上手く支援していくことも必要と考える。

その他、永澤委員に観光についてお話をいただきたいがどうか。

(永澤委員)

観光都市としての ICT の取り組みが必要である。そのため、観光地の情報発信を行う情報インフラの整備、そしてそれらを維持し、観光消費の拡大につなげる視点が必要ではないか。

(奥野委員長)

その他、意見はないか。

(委員から特に質問、意見等なし)

それでは、2つ目の推進を支える取組について何か質問や意見はあるか。

取組としてはデジタル推進人材の育成、デジタルデバイド対策、官民共同の仕組み作りと3つあげられているが、デジタル推進人材の育成については、先ほど教育に関する話や、中小企業の話の中で、意見をいただいているところである。その他、加えるところがあれば意見をいただきたい。

(三上委員)

デジタルの技術を持つ人材と各分野の人たちとの間で、恒常的な対話の機会を設けることが必要ではないか。特に、ポストコロナの時代においては対話が重要であると考えます。

(奥野委員長)

その他、意見はないか。

(永澤委員)

プログラミング教室を市が主催している等、デジタル化推進における人材育成は重要であるが、そのような若手人材が当たり前になる時代に備えて各組織上層部の意識向上も同時に必要であり、未来大学などの ICT 拠点を利用して、さまざまな分野の人々との対話を深める仕組みを作り、中小企業を含む底上げを達成するための基盤構築を進めてほしい。

高校生に対するデジタルデバイスの提供について、私立学校でのポリシーのバラつきや、生活困窮者のデバイス購入の困難性がある。都道府県によっては1人1台のデバイス配備に成功し、小中高と一貫した教育展開が可能な地域もある。函館らしい、学校に対するデバイスの利活用策や、中学校でのデジタル学習の推進が必要であり、教育現場がデジタル化を遠慮せず、どんどん進めていくためには明確なメッセージと取り組みの場作りが必要であると考えます。

(奥野委員長)

佐藤委員から福祉関係のお話をいただきたいがどうか。

(佐藤委員)

スマートフォン操作の教育や地域での教室開設は年齢層に関わらず技術へのアクセスと理解を深めるために必要であると考えます。特に子供たちが学んだことを家庭に持ち帰り、親世代へ教えることで、より広範に技術理解が深まるのではないかと考えます。

(奥野委員長)

教育現場の話が出たが、倉山副委員長から補足願いたい。

(倉山副委員長)

教育現場における ICT 教育の役割について、高校入学後、授業の中で初めてインターネット利用に関してのルールを知るような状況であり、学生がデジタルデバイスの使い方を年上の方に教えるといったことにも課題がある。

小学校からデバイスの決められた使い方だけでなく、もっと柔軟な技術の使い方を教えるべきだと考える。

(永澤委員)

技術の理解に関しては、それがどのように動作しているか詳しく理解するよりも、どのように目的を達成するために活用できるかを理解することが重要ではないか。

(奥野委員長)

本日欠席している市村委員から意見をいただいているので紹介する。

※市村委員からの意見

デジタル推進人材の育成についてはデジタル成熟度診断の実施、デジタルデバイド対策については情報セキュリティの対策も必要。事件事故の事例紹介も含めた取組事例の共有など、基本的な考え方を共有する必要があるのではないかと。

また、官民共同の仕組みづくりについては、取組事例の共有が有効である。

(奥野委員長)

官民共同の仕組みづくりについては、三上委員、永澤委員、市村委員から意見があったように「場をつくる」といったことが重要になると考える。

その他、意見はないか。

(委員から特に質問、意見等なし)

それでは、3つ目の推進体制について、先に市村委員からいただいた意見を紹介する。

※市村委員からの意見

CDO や CDO 補佐官の設置が考えられるのではないかと。

(奥野委員長)

他地域でデジタル推進ビジョンを策定しているところでは、CDO のほか CIO (最高情報責任者) を設置している事例もある。

他地域の推進体制について、堀田委員からお話をいただきたいがどうか。

(堀田委員)

前任地の長野には、大学が企業と自治体を結びつける役割を担う信州 DX 推進コンソーシアムがあった。大学が県内各自治体の課題を企業に紹介し、技術と課題をマッチングさせる仕組みを取っていた。

(奥野委員長)

函館市も包括連携協定を結んでいる企業があるので、そういった企業と連携ができればいいのではないかと。

(奥野委員長)

他に企業の取組について永澤委員からお話をいただきたいがどうか。

(永澤委員)

会議所では IT・DX 専門相談の開催など、具体的な取り組みを行っているほか、IT 導入補助金に関する社会的ニーズの高まりもある。しかし、地元の中小企業からのニーズがそれほど多くないことから、相談のきっかけ作りなど積極的な働きかけが必要でと考える。

ICT の導入を進める企業との連携を強化するために、チームを設置し、そのチームが推進組織の一部として位置づけられ、具体的なテーマを一つずつクリアしていく仕組みも検討できるのではないかと。

(奥野委員長)

最後のまとめとなるが、結局のところ、そういう「場」をつくっていくことが必要であり、産学官連携において、現場レベルで連携できるような「場」をつくるのが重要だと考える。

その他、意見はないか。

(委員から特に質問, 意見等なし)
それでは、「函館市デジタル化推進ビジョンアウトラインについて」は終了する。

(4) 函館市デジタル化推進協議会スケジュールについて

(奥野委員長)

次に、議事の(4)「函館市デジタル化推進協議会スケジュールについて」、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局 上戸主査)

【資料3】に基づき説明

(奥野委員長)

何か質問, 意見はあるか。

(委員から特に質問, 意見なし)

スケジュールの中で市民アンケートについて話があったが、市村委員からも意見があったようにフィードバックが重要となる。いくら良い計画を作っても、それがアウトバウンドとして出てこなければ意味がない。ぜひアンケートなどで、ビジョン推進の効果がどうなっているかは随時吸い上げていくような形が必要だと考える。そういう意味ではどういうアンケートを取るかは非常に重要なので、アンケート項目について事務局から意見を求められたときには、各員忌憚のない意見をお願いしたい。

それでは、「函館市デジタル化推進協議会スケジュールについて」は終了する。

..... 4 そ の 他

(奥野委員長)

その他として、各委員から何かあるか。

(なし)

事務局から何かあるか。

(事務局 上野課長)

協議会の議事録について、とりまとめ次第、委員に確認のうえ公表予定である。

(奥野委員長)

他に何か質問等はあるか。

(なし)

..... 5 閉 会

(奥野委員長)

これをもって、令和5年度第1回函館市デジタル化推進協議会を終了する。スムーズな議事進行へのご協力に感謝する。

以上